

飯能西中だより



天覧山

2月号

飯能市立飯能西中学校
学校だより
令和5年度 第11号
令和6年2月7日発行

<校訓> 誠・和・進

<学校教育目標>

自立・共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくただいまと言える学校でありたい
飯能西中学校スクールアイデンティティー

子どもが学校に行けないとき

校長 中村 公一

今年は暖冬となり霜や結氷のない過ごしやすい毎日が続いていますが、最近になって新型コロナウイルスの感染者が再び増える傾向にあり、まだ高校受験を控えた生徒がいる中学校にとって少しも油断出来ない状況にあります。そのため学校内でクラスターが発生しないよう十分に注意していかなければなりません。ちょうど1年前の今頃と比べると、手洗いや換気などへの関心が社会全体でもやや薄くなっているように感じます。近隣の学校などでも感染が増加する傾向にあるようですから、以前行っていた感染予防対策を改めて思い出し励行していきたいものです。

さて、ここ数年にわたり全国で学校に登校できない生徒が増えていることが大きな問題となっています。本校も例外ではなく、年度の途中から登校できなくなってしまう生徒がいるほか、長期にわたる欠席にはならないものの、なかなか学校に足が向かない生徒もいるので、このことにどのように向き合っていくかが重要な課題となっています。私たちが心配していること以上に大変な思いをしているのは生徒自身であり、またその保護者の方だと思うのですが、特に休みが長期にわたり連続している生徒の保護者の皆さんのお気持ちを考えると、そのご心労は大変なことと思います。実は私も同じ経験をしているのでよくわかります。きっと毎朝「今日は学校に行けるだろうか」という重い気持ちでお子さんに声をかけていらっしゃるのではないでしょうか。なんとか元気が出るようにと朝から励ましの声をかけたにもかかわらず、結局その日お子さんが学校に行けなかつたときには「今日もだめだったか」という暗い気持ちを抱えたまま仕事に向かい、ことあるごとにお子さんのことを思い出してはため息をつき、ときには「いったいどこで育て方を間違えてしまったのだろう」と自分を責めたりすることもあるのではないかでしょうか。夕方、仕事が終わって家に帰り、元気が戻ったお子さんの様子をみていると「明日こそは大丈夫かもしれない」という淡い希望を持つのですが、翌朝になるとその希望は見事に打ち砕かれ、やはりまた同じことの繰り返し。何でうちだけがこんな目に遭うのだろう、いったいいつまでこんなことが続くのだろうというやりきれない気持ちにもなってしまいます。休みの日になって昨日までのことが嘘のように元気に過ごしている子どもの姿を見ていると、学校に行けないのはただの我が儘のようにも思えてきて、「これくらいのことと我慢できなければ、世の中で生きて行くのはもっと大変なのだから厳しくしなければ」と思うものの、朝になって本当に辛そうにしている子どもの様子を見ていると、「もう今日は休ませてあげて、また明日から頑張らせてあげたほうがいいのかかもしれない」と思ってしまったりします。そして、そのような優柔不断な自分の態度に親としての不甲斐なさを感じ、自分こそが我が子をだめにしている原因なのではないかとまた自分を責めてしまったりします。毎日が暗く重苦しい気持ちに包まれてしまっている家庭の様子が私にも手に取るようによくわかるのです。

生徒が登校を渋る原因は千差万別です。クラスや部活での友達や先生との人間関係、授業についていけない不安や疎外感、宿題や課題などを達成できない不安、苦手なことへの不安などがすぐに思いつくところですが、ゲームやインターネットなどから離れられなくなってしまい生活リズムが昼夜逆転してしまって朝起きられないという環境の要因も絡んできます。そして多くの場合は生徒自身にも原因が何かわからず、本当にお腹が痛くなったりしてしまうのです。原因は決して一つで

はなく複数の要因が重なりあつてゐることは間違ひありません。例えばゲームやインターネットなどへの過度な依存は、勉強や部活、人間関係が充実しているような人が陥ることとは考えにくいものです。勉強や学校生活に不安があつたり、日々の生活にやり甲斐を見いだせない人の逃避先として、ついでに陥ってしまっているというケースは少なくありません。極論ではありますがそもそもの原因是、ここ30年程の間に社会が大きく変わってしまったのに対し、学校という教育システムは30年前とさほど変わっておらず、今のニーズに対応し切れていないことにあるのかもしれません。いずれにしても考えられる要因を探し出し一つ一つ解決していくことが必要になってきます。

人間の心は繊細で折れるときは本当に一瞬ですが、それを修復していくのには長い時間と根気が必要となります。登校渋りに限らず子供の悩みや課題と向き合う第一歩は「子どもと一緒に苦しむ覚悟」を決めることがないかと思います。私たち教員も保護者の皆さんと一緒に悩み苦しむことを厭わないことをお約束します。もしもお子さんが学校に足が向かないことなどで悩んでいることがありました是非ご相談ください。私でよければ校長としての立場をひとまず置いておいて、同じ経験を持つひとりの親として皆さんと悩みや苦しみを分かち合いながらお話を伺います。

受験はゴールではなくスタートなのです

生徒の皆さんへ

今、3年生の皆さんは進路決定に向けた大きな試練のまっただ中にいます。公立高校の入試を前に不安な毎日を送っている皆さんのがいる一方で、すでに私立高校への進学が決定した人もいるのですが、受験はゴールではないということを1、2年生の皆さんにも知っておいてほしいと思います。

中学1年生の4月から中学3年生の3月までの3年間を中学校生活としてひとくくりに見ると、確かに受験などの進路決定は中学校生活のゴールのように見えなくもありません。しかし、進学先の学校などが決まったとしても、それは一人一人のスタートラインが決まったというだけであつて、まだ何も始まってはいないのです。むしろ進学してからいいスタートを切るためににはここで準備をしっかりとしておくなくてはいけません。何のために進学するのか。将来どのように身を立てていくのか。一度立ち止まってよく考えてみましょう。3年生の皆さんの進路について話し合うとき、飯能西中学校の先生方は3年生の皆さんがこれから歩んでいくであろう一人一人の人生のために、何をすべきかということを自分事として捉え真剣に考えています。もちろん1、2年生の皆さんの方も、将来のためにどんな中学校生活を送れたらいいのかを真剣に考えててくれています。「とりあえず卒業を見届けるまでが私たちの仕事だ」などとは考えていないのです。たまに卒業生が訪ねてきて在校中にお世話になった先生方と楽しそうに話している姿を見かけます。皆さんともそのような関係を大切に出来たらいいなと思うこの頃です。3年生の皆さん頑張ってください。

お知らせ（団体傷害保険について）

埼玉県PTA安全互助会から団体傷害保険の案内が届きました。本日以降、中学1・2年生の家庭に配布させていただきます。学校生活の中では思わぬ事故が発生してしまう場合があります。例えば、生徒が休み時間中にキャッチボールをしていたところボールがそれで近くに止めてあった車に損害を与えてしまったというような場合には、法律的には生徒に損害賠償責任が生じことがあります。あまり知られていないことなのですが、学校の中で起きたことや部活動中に起きたことでも場合によっては賠償責任を問われることがあります。また、いじめやネットでのトラブルを解決するために多額の弁護士費用がかかってしまう場合もあることから、これらの費用をカバーするための保険となっています。各ご家庭でリスクマネジメントの参考としていただければと思います。

○ 2月の主な行事予定 ○

1月 30日 (火) ~2月 7日 (水)	15 日 (木) アメリカ合衆国ブレア市 交流生徒来校
1・2年生の教育相談期間	
7日 (水) 公立高校入学願書提出 (9日まで)	17 日 (土) 漢字検定
1・2年教育相談最終日	21 日 (水) 県立高校学力検査 テスト前諸活動停止 (25日まで)
11日 (日) 音楽フェスティバル (吹奏楽部) 飯能市民会館にて	22 日 (木) 県立高校実技検査・面接 (一部の学校)
12日 (月) 振替休日	26 日 (月) 学年末テスト 給食なし
14日 (水) 公立高校志願先変更 (15日まで)	27 日 (火) 学年末テスト 不審者対応訓練